

問題

- ① 中学3年生で語り部となるきっかけがありました。その時の思いを文中から書き出しましょう。
- ② 「災害を経験していない人」は何を誰に伝えてほしいと呼び掛けていますか？

を
に伝えてほしい。

- ③ あなたなら誰に何を伝えたいですか？

を
に伝えたい。

(小学校／総合的な学習の時間「防災」)

出題者から

現在の小学1年生が生まれた年度に東日本大震災が起きました。いかにしてその小さな命を守るか、被災されたご家族は大変苦労されたと思います。つらい震災経験を乗り越え、語り部として活動している高校生がいます。彼らが何を伝えたいのか、皆さんも考えてみましょう。

(日本新聞協会NIEアドバイザー・仙台市七郷小教頭 中辻正樹)

震災伝承経験生かす

石巻西高3年相沢さん 大阪で講演



東日本大震災の被災体験を語る石巻西高3年の相沢さん

小学5年の時に東日本大震災で被災し、語り部活動を続ける石巻西高3年の相沢朱音さん(18)が27日、大阪府枚方市で中学生ら約160人を前に講演し「防災を伝える輪を広げて」と語り掛けた。津波で東松島市の自宅を失い、一番の仲良しだった同級生が犠牲となった。前日の帰り道、ちよつとしたことでけんか別れた「なんで私だけが生きていて、あの子が死んでしまったの」。生きる意味が見いだせず、ふさぎ込むようになった。

転機は中学3年の時。三重県の中学生との交流会で被災体験を語

涙こぼし「今日を大切に」

つたことをきっかけに「親友の死を悪い出来事のまま終わらせないためにも、震災を後ろ向きに捉えず、伝えていきたい」と思うようになったという。以来、宮城県内外で語り部活動を続けてきた。

講演で、震災前後の東松島市を撮った写真をスライドで映しながら体験を語った相沢さんは「災害を経験していない人でも語り部になれる。防災について考えたことを、友達や家族に伝えてほしい」と呼び掛けた。

終始、笑顔で言葉をつないだが、講演の最後に「笑っていないと(つらくて)話せない」と打ち明けた。「みんなの大切な人が明日、いなくなってしまうかもしれない。今日を大切に生きて」。涙をこぼし、訴えた。